



吉高の大さくら(印西市)

2016.04.09



昭和の森公園オオシマザクラ(千葉市)

2016.03.31



ソメイヨシノ(袖ヶ浦市)

2020.04.01



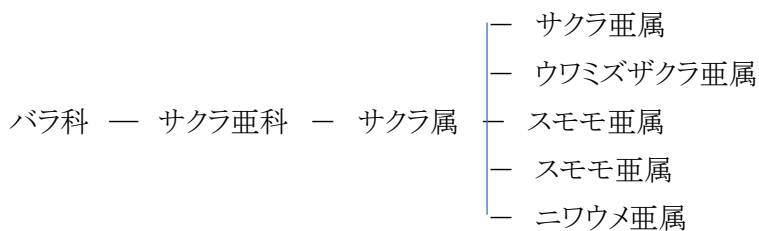
遠山ザクラ(成田市)

2017.04.09

サクラはどんな樹木？

バラ科サクラ属サクラ亜属に属する落葉性の樹木で、サクラと総称しているものはサクラ亜属に属するものを言う。(ウメ、モモ、アンズ、サクランボ、スモモなども含まれる属)。

サクラ属は主として北半球の温帯に広く分布しており、ヒマラヤ地域が原産といわれています。



樹形は、一般的に経年経過して盃状に広がり、同様に根は、広範囲に比較的浅く広がる性質を持ちます。

栽培条件

- 日当たりと風通しがよく、肥沃な大地が好ましい。
- ヤマザクラのように10～25mの高木になる品種は、広い場所を必要とする。
- マメザクラのように2～5mの高さのものもあり、品種により樹高は異なる。
- チシマザクラなど高山性の品種は耐暑性がやや劣り、
- 寒緋桜は、北海道や東北北部の寒冷地は、やや難しいです。
- 樹高が比較的高くならない品種

一重： 河津桜、寒緋桜、オカメ桜、天の川

八重： 関山、普賢象、八重紅虎の尾などがあります。

●さくらの嫌う場所？

サクラは、酸素・水分・養分を多く必要とするため、
「砂質土壤の場所」

海岸などにある砂質土壤は、土壤の粒子が大きくて乾燥しやすく、有機質に乏しく、保肥力や保水力が小さい特徴があるため、樹勢が衰えたり枯死したりします。

「粘質土壤の場所」

水田跡地のような粘質土壤は、通気性や水はけが悪く、根が張りにくい特徴があり、生育不良となります。

「風当たりの強い場所」

海岸や川沿いは景観も良く、サクラの植栽に選ばれることも多い場所ですが、サクラは強風、寒風、潮風に弱い性質があり、樹体が弱ったり枯れたりする原因となります。

●千葉県には、どんなさくらの名所があるか？

千葉県さくらの会が製作した「市町村が薦めるさくらの名所」に掲載されているさくら名所 71か所を整理すると。

- ① 植栽場所:公園(36%)、親水地域(20%)、社寺・城かく(20%)、道路(14%)
- ② 植栽形態:広場(面的)(58%)、並木(線的)(34%)、その他(一本桜、山腹)
- ③ 植栽種・品種:ソメイヨシノ(85%)、カワズザクラ(3%、2か所)、しだれ桜(6%、4か所)、ヤマザクラ(6%、4か所)

●千葉県から登録されたさくらの品種？

千葉県で見つけられて登録されたサクラ品種として「鎌足桜」と「清澄しだれ」がある。



鎌足桜は、藤原鎌足公伝説のある品種で、木更津市の旧家で育てられていた祖株が衰弱してきたため、2004年に伝説の由来する高蔵寺境内(木更津市)に移植されました。ヤマザクラ系の八重桜で、4月中旬から下旬にかけて開花すると記載があります。



清澄しだれは、清澄寺(鴨川市)に原木があり、国立遺伝学研究所が登録したしだれ桜です。

マメザクラとオオシマザクラの交雑種と考えられ、中輪の白ないし淡い紅色の一重咲きで、4月上旬から中旬に開花します。

●開花時期の特徴

秋に開花する特性の品種として十月桜と冬桜があります。十月桜は10月頃から咲き始め、翌春にも花が咲く。冬桜は、11月から12月にかけてと春に花が咲きます。

その他、ヒマラヤ原産の野生種ヒマラヤザクラが、千葉県では11月頃に開花がある。

●千葉県には、どんなさくらの名所があるか？

千葉県さくらの会が製作した「市町村が薦めるさくらの名所」に掲載されているさくら名所 71か所を整理すると。

- ① 植栽場所:公園(36%)、親水地域(20%)、社寺・城かく(20%)、道路(14%)
- ② 植栽形態:広場(面的)(58%)、並木(線的)(34%)、その他(一本桜、山腹)
- ③ 植栽種・品種:ソメイヨシノ(85%)、カワズザクラ(3%、2か所)、しだれ桜(6%、4か所)、ヤマザクラ(6%、4か所)

●さくらの狂い咲きは、なぜ起こる？

サクラ(ソメイヨシノ)は、前年の夏期に花芽が形成され、冬期に休眠します。そして、一定期間低温にさらされることで休眠が打破され、その後の気温の上昇につれ花芽が成長して、春に開花するとされている。

ところが、台風などにより葉の損失が生じたり、害虫の食害で葉が損失すると、補うための活動が休眠の打破をもたらし花が咲くことがある。

●さくら(ソメイヨシノ)の花付きを確認する方法？



ソメイヨシノは1か所から数個の花が付く散形花序で、一つのつぼみに複数の花が入っています。普通に元気な木には花の数が4~5個、花の数が3個以下はあまり元気でない木。

調査方法は、3月下旬頃高枝バサミで東西南北各1本計4本の小枝を選択し、蕾(花芽)の数を数えてつぼみの中の花の数を数えます。又は、開花した花卉の数を集計して平均値を求める方法があります。

●千葉県のさくら巨樹、古木？(樹齢100~300年以上のいわれがある)

千葉県内に生育するサクラ巨樹、古木は、ヤマザクラ、しだれ桜、ソメイヨシノなどがあり、主要なものの例は。

- ① ヤマザクラ : ・吉高の大桜(印西市吉高) ・沢の大桜(香取市沢) ・黄門桜(匝瑳市飯高)
- ② しだれ桜 : ・弘法寺の伏姫桜(市川市真間) ・東漸寺のしだれ桜(松戸市小金)
・清龍院のしだれ桜(流山市都借) ・福星寺のしだれ桜(四街道市吉岡)
・長光寺のしだれ桜(山武市埴谷)
- ③ ソメイヨシノ : ・最も古いソメイヨシノは市西小学校の百年桜(市原市海士有木)
・永治小学校の百年桜(印西市浦部) ・本埜第一小学校の大桜

梢端枯れ(小枝、冬芽の減少)



テングス病羅病枝



根の露出、子実体の出現(コブキダケ)



オビカレハ



ナラタケモドキ(柄にツバなし)



開口空洞あり



ベッコウダケの子実体

主要な病気

1. 天狗巣病

一部の枝がこぶ状にふくれ、その部分からホウキのような細くて小さな枝が無数に発生します。この枝には花は咲きません。Taphrina wiesneri というカビの一種で子嚢菌類であります。空気中の飛散で感染、ソメイシノは、発病しやすい。

冬期に数回、石灰硫黄合剤やダイセン、銅水和剤などを散布します。

(駆除)病気の枝は、見つけ次第付け根から取り除きます。切り口には癒合剤を塗ります。

2. 根頭がん腫病

病原菌:Nectria galligena 子のう菌類に属する糸状菌で、カビの一種。サクラのほかにも多くの樹木に病原性を示す多犯性の菌です。春から秋にかけて分生子は雨の飛沫とともに飛散や昆虫の体に付着して伝播し、子のう胞子は降雨後に放出・飛散して風媒伝播を行います。これらの胞子は葉柄痕や傷口から侵入して発病に至るとされてる。

地際付近にこぶ状の隆起物ができ、次第にこぶは大きくなり、やがて腐る根にも同じようなこぶができ、発病した株の生育は悪化、枯死する場合もある。発病した株を抜いて処分をした場合、再び発生しないように株が植えてあった付近の土を入れかえるか、土壌消毒を行う。

(駆除)こぶを切り取り、ストレプトマイシン剤を切り口に塗布。

3. 増生病

枝に“こぶ”をつくる病気はオオヤマザクラで多く観察され、これまでは寒冷地に特有の病気と認識されていた。最近‘染井吉野’や温暖な地域のヤマザクラの枝にも“こぶ”が形成されているのがみられ、“こぶ”が樹木全体に拡がり、周辺のサクラにも伝染している可能性がうかがえます。“こぶ”についてはまだ感染経路、“こぶ”の形成過程、伝染方法など不明な点が多いのが現状です。

4. サクラこぶ病

病原菌:Pseudomonas syringae pv. Cerasicola バクテリアの一種。Pseudomonas syringae は広葉樹に“こぶ”を形成する病原菌として知られ、特定の樹種にのみ病原性を示すいくつかの病原型を有します。サクラに病原性を示す病原型は、特にヤマザクラ系のサクラに強い病原性を示すとされています。

5. 膏薬病(コウヤクビョウ)

枝に膏薬を貼ったようにカビが生える。風通しが悪い。日当たりが良く無い。カイガラムシの分泌物を養分として生育する。

6. せん孔褐斑病

葉に1～5mmの褐色の斑点ができ、その後中央に穴があく。糸状菌による病気。

病原菌は葉などに付着し栄養分を吸収しどんどん増殖する。

発病した葉や枝を切除し焼却

主要な害虫

1. アメリカシロヒトリ:発生時期:6月、8月下旬～9月中旬

枝咲きに糸を張り巣を作り、その中にケムシが群がり住んでいます。ケムシは時々巣から出て、葉を食害。

成虫は白い蛾で、初夏及び真夏に発生し、葉に産卵する。

落ち葉の下に越冬しているさなぎを見つけたら、捕殺します。

(駆除)幼虫が小さいうちに1週間おきに2~3回、オルトラン、スミチオンなどを散布します。

2. オビカレハ:多発時期:4月~6月

太い枝の分岐した部分などに、糸をはいて巣を作り、灰青色に背にオレンジの帯のある幼虫が発生し、葉を食害します。

冬期、枝にリング状に産みつけたれた卵の塊を見つけたら、取り除く。

(駆除)幼虫の小さなうちに、スミチオンを散布します。

3. モンクロシャチホコ :年1回の発生で、8月ごろ産卵9~10月ごろ5から6齢を経てどちゅうで蛹として越冬翌年7~8月に羽化。

捕殺、薬剤防除スミチオンなど

4. コウモリガ: 成虫は、7~9月に出現。卵態で越冬して翌春孵化、食害を続けた食害部内で蛹化、羽化穿入孔にスミチオン等の注入

5. クビアカツヤカミキリ:特定外来生物に指定(2018年1月)幼虫が材内を2から3年かけて食害し、6月中旬から8月上旬ごろ成虫となって外部に出現。まだ県内の出現報告が確認されていない。

トラップ、有効な手段がまだない。

其の他 :最近目にするウメノキゴケの対策は?

ウメノキゴケは地衣類の一種で、下部の偽根で張り付き、共生している藻類の光合成で生活しているので、樹木から養分を吸収していません。しかしサクラは、通気性を好み、樹皮の皮目からも呼吸していることが多いので、樹勢が弱ると言われています。

防除方法としては、木酢液の散布後にブラシなどではぎ取る方法、動力噴霧器の水圧で除去する方法、が実施されています。

●さくらの寿命は?

ソメイヨシノの寿命は、種類(品種)や管理方法によって寿命に大きな差が出てくる。サクラの古木は、ヤマザクラ、シダレザクラ、エドヒガン、オオシマザクラなどで、数百年経たものが現存しているが、ソメイヨシノは、その歴史から100年越えは、珍しいところです。

●さくらの樹の更新の判断は?

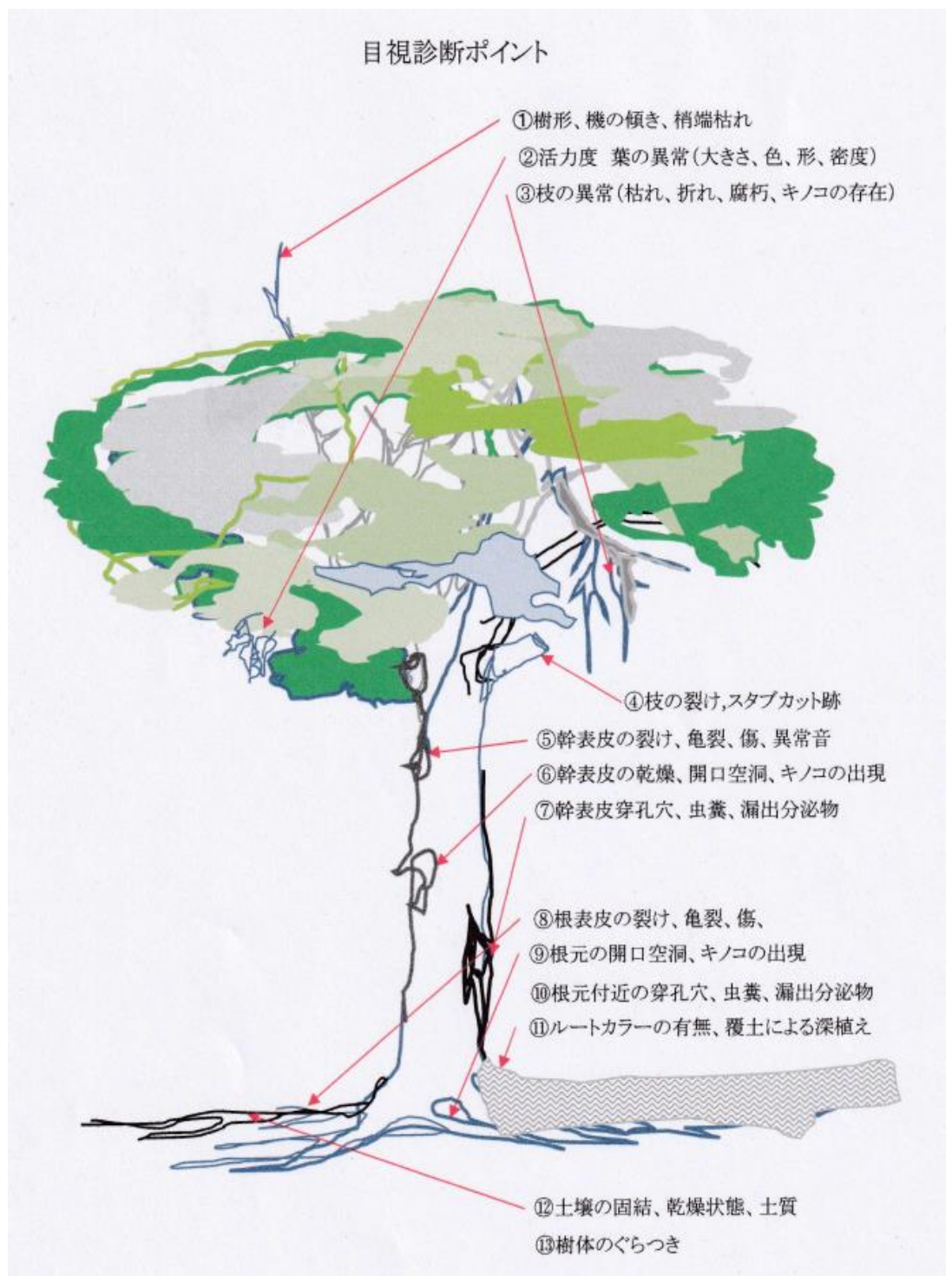
街路樹の更新判断の一つに地上部の衰退度判定を行っており、サクラでも適用します。

具体的には、生育状態が極めて劣悪で自然樹形がほぼ崩壊しているか、ほとんど枯死している場合に更新の対象となる。

木質腐朽菌による腐朽の進行が空洞化や倒木の危険性がある場合も更新の対象とする。

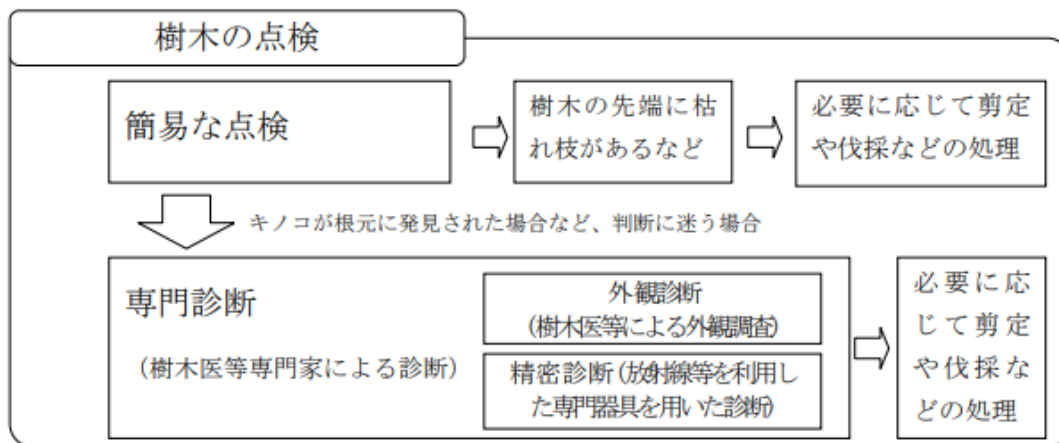
簡易診断のポイント

1. 記録し、対比する。(大きさ、生育状況・・・診断、周囲の環境など)
 - ①記録用紙に簡易的な継続記録
 - ②比較資料の検討
2. 異常の早期確認と相談
 - ①蓄積データによる相談と時期の決定3.
3. 計画的な保存
 - ①枝葉の専有面積の確保、密度の検討
 - ②適宜に剪定、枯れ枝除去、障害物との優先順位の決定
4. 保存のための対策
 - ①土壌の固結、根上がり、対策(人止め柵の設置、土壌の改良、など)
 - ②間引きや剪定による調整



●樹木の点検について

樹木の点検は、日常的に点検を実施するとともに、判断が迷う場合については、専門家による診断を実施することをお勧めします。



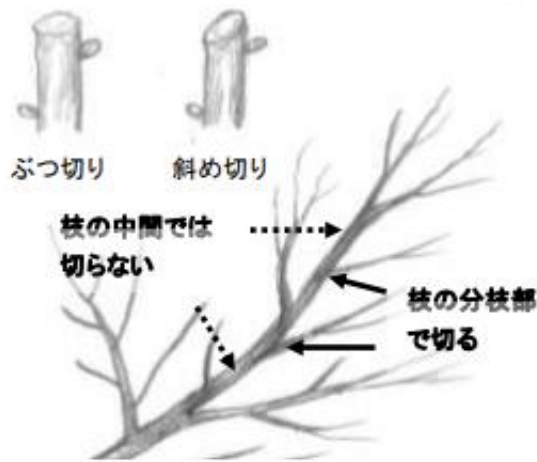
現象	目視ポイント
胴吹き(幹に出る)、ひこばえ(根付近から出る)	強剪定などの不足葉の補填
幹の移動箇所(形成層を含む師部組織や導管)でつながる枝葉は、各々その成長だけを支える。	根、幹の損傷による枝先の衰退 二次的な締め付け、食い込み
成長に伴う日陰	被圧による自身の日照不足
深植え、土盛り、踏圧による土壌固結	土中の酸素不足、嫌気菌の増殖、水はけ不良
空洞音、内部腐朽音、正常音の違い	小槌の打音
土中の異常、深植え、開口部深さなど	鋼棒の貫入

樹木の障害発生危惧原因

発生初期原因	発生原因 (複合的)	出現状況	発生危惧現象
環境と生育の不和合	異常気象を含む気障害	落枝、病虫害の羅病	倒木、落枝その他支障原因の恐れ
人為的環境の悪化	成長段階の問題	双幹、入皮、亀裂	
植栽時の問題(深植え、損傷、土壌不良、樹種選択の不備、密度の不適正など)	成長段階の問題 成長段階、人為的要因問題 (剪定時期、手法の問題 樹種の特性の問題)	樹高と枝張りのバランス不安定 落枝、病虫害の羅病	
	成長段階、人為的要因問題 (剪定時期、手法の問題 樹種の特性の問題) 成長段階、人為的要因問題	腐朽、空洞 幹の裂け、割れ 根の損傷、腐朽 巻根(ガードリング)	

(1) 枝の基本的な切り方

樹種によって大きくなり過ぎた樹形を縮小再生するため、大枝の切断を行うことがあります。サクラは傷口から病原菌が侵入しやすいので、小さい時から基本的な樹形を作ってなるべく大枝の切断で切り口を大きくすることは避けましょう。通常の枝の切断は枝の分かれ目で斜めに切り、枝の途中で切らないようにしましょう。

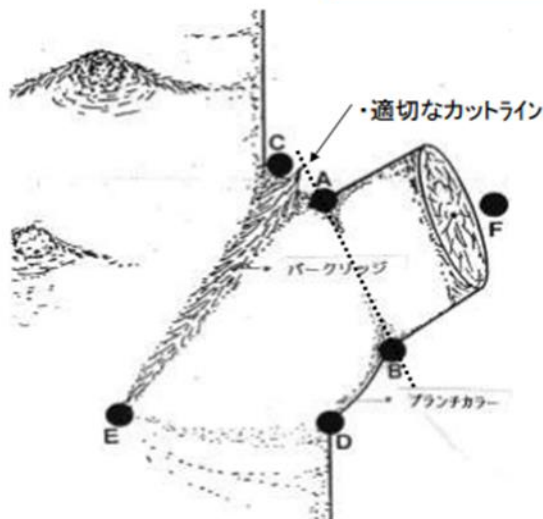


枝の剪定の良い例 → 悪い例 ……

枝の剪定の良い例

資料1

大枝の適切な切断方法



A-Bカット 適切な切断



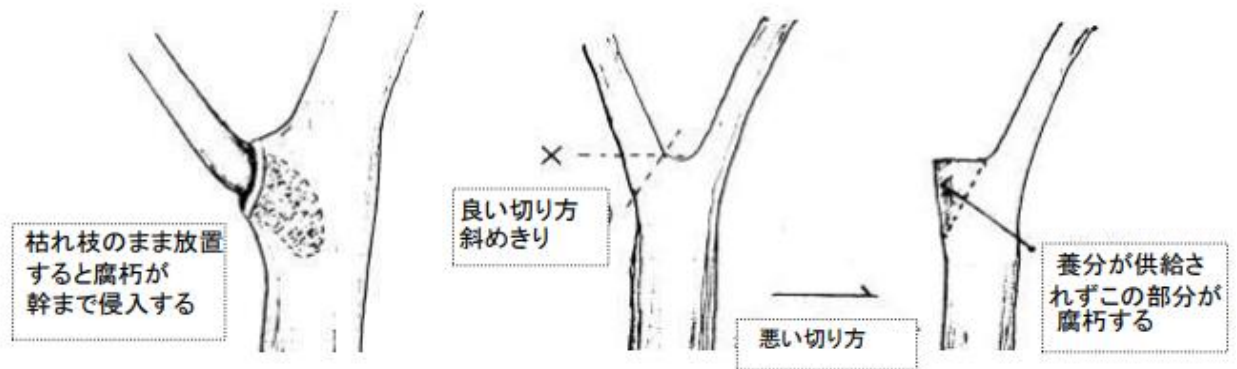
A-Bカット 適切な切断



C-Bカット 不適切な切断



C-Dカット 不適切な切断



(2) 大枝の切断

大きな枝の切断が必要になった場合、落葉期間に適切な方法で切断します。枝の組織と幹の組織は別で、大枝の切断では切断の誤りで傷口が塞がるのが遅くなり、その部分から腐朽菌が侵入して倒木に繋がる可能性があります。

適切な切断方法はC（パークリッジ）の外側でブランチカラーを残してA-Bラインで切断することです。CからB・Dを結ぶ部分は幹の部分で、傷口を塞ぐ組織が詰まっています。切り口には殺菌癒合剤を塗布してください。（※資料1参照）

(3) 切り残し枝・胴吹き枝の処置

枝を途中で切ってそのままにしているために、切り口から腐朽が広がり幹にまで及んでいる例が多いです。このまま放置すると幹の腐朽が進行して倒木に到る危険があります。また、切り残し枝が傷口を塞ぎ、再生の邪魔になっている例が多く見られます。

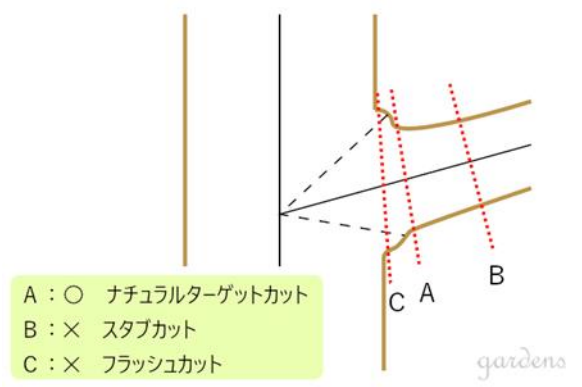
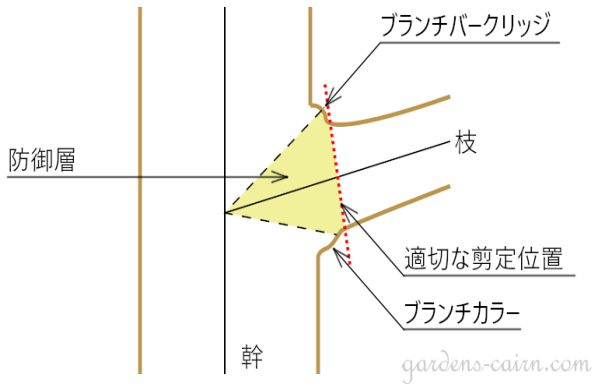
胴吹き枝は樹形を乱す原因ですので、見つけ次第早めの剪定が必要です。



切り戻し枝の切断（赤線）



胴吹き枝の剪定（赤線）



- スタブカット : 幹から離れた場所で切除する方法で、枝の組織が傷口をふさぐことが困難
- フラッシュカット : 幹に沿って平滑になるように切断すること。幹の組織まで傷つけてしまうためダメージが大きい。
- ナチュラルターゲットカット : ブランチカラーを残して切除する方法で癒合しやすい。

切り口殺菌剤資料



参考資料:

(千葉県さくらの会設立 40 周年記念)さくらの植栽と管理 ...千葉県さくらの会
 (公社)千葉県緑化推進委員会
 特定非営利活動法人
 樹の生命を守る会
 気象予報士会埼玉支部
 千葉県さくらの会
 堀大才
 (公財)日本さくらの会

サクラ開花の周年変化
 市町村が進めるさくらの名所
 枝と幹の構造と剪定の理論
 さくらの基礎知識

